



新進建設株式会社

業務内容 建設業

創業 1958年

従業員数 57名

所在地 高知市九反田5-8

「何も分からない」から始まったDX 人と現場を強くした新進建設の挑戦

総合建設業を営む「新進建設株式会社」のDXは、知識もなく不安を抱えたままのスタートでしたが、「県のモデル事業に選ばれたご縁を大切にしたい」という思いから一歩を踏み出しました。富士通ラーニングメディア様（県委託先）の伴走支援のもと、社内外の力を借りながら進めたDXは、業務効率の向上だけでなく、人材の発掘や会社の可能性を広げる結果につながりました。



Q 御社のデジタル化の取組内容について教えてください。



デジタル化については、2つの領域を中心に取り組みました。1つ目は社内業務です。グループウェアを導入し、ウェブ会議やチャットを活用して社内コミュニケーションをデジタル化しました。2つ目は現場での取り組みです。ドローンや3DスキャンなどのICT技術を活用し測量・計算にかかる時間を大幅に削減。その結果、作業効率化と安全性向上、省人化を実現しています。また、蓄積データを活用し、AIによる業務自動化や品質・安全面の分析も進めています。

お話を聞いたのは



総務部
上野さん

Q 抱えていた課題と、デジタル化に 取り組んだきっかけを教えてください。

高知県中小企業デジタル化促進モデル事業に選定されたことが、DXに踏み出す大きなきっかけとなりました。社内で課題を整理した結果、紙中心の業務やアナログな情報共有による非効率さが課題として浮き彫りになりました。そこで、富士通ラーニングメディア様から「DXの第一歩としてデジタル化を進め、業務プロセスそのものを改善していく」という提案を受け、単なるツール導入にとどまらない、本質的な業務改革に取り組みました。



Q デジタル化に成功した 秘訣を教えてください。

成功の鍵は、段階的に人を巻き込んだことです。社内にチームをつくり、各部署の責任者を巻き込んで推進しました。同じ課題感を共有し、「将来のためにも今やらない」という認識で臨み、現場の不安や不満は各部署の部長が解消に努めました。また、DXを推進する中で社内に眠っていた人材が頭角を現すきっかけにもなりました。既製品を活用し、コストとリスクを抑えた点も継続につながっています。



デジタル化導入までの 期間とプロセス

- 高知県中小企業デジタル化促進モデル事業に申請後、2020年12月より稼働開始。

導入にあたっての人材確保 (ITベンダー含む)

- ITパスポート・情報セキュリティマネジメント資格取得を推進することで社内でITスキルを持った人材を育成
- eラーニングを活用した社内教育を全員に行うことで、社員全員のスキルをボトムアップ

導入したITツール

- Google Workspace
- どっと原価NEO(原価管理ソフト)
- TREND-POINT(点群処理システム)
- ドローン、3Dスキャナ
- AirCouse(eラーニング) など

支援機関、補助金等の 活用の有無

- 高知県中小企業デジタル化促進モデル事業
- ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金
- IT導入補助金(経済産業省)

受賞にあたって

不安もありましたが、結果的にデジタル導入をしてよかったと感じています。新しい出会いもできて広がりもありました。伴走していただいた担当者さんの「DXを導入できない企業は生き残れない」という言葉がとても印象的でした。

これからデジタル化に取り組みたい事業者様へ

建設業は忙しく現場優先になりがちですが、書類作成や情報共有など、できるところから少しずつ取り組むことで、現場と監理の負担は確実に軽くなりました。デジタル化は特別な改革ではなく、事業を続けていくための一つの選択肢です。デジタル資産がいかに大切なのかを実感すると、考え方や行動パターンも自ずと変わります。



代表取締役
小川裕司氏